

GREETING:挨拶

私の身のまわりで起きたこと、最近私が考えている事。

残暑お見舞い申し上げます

いつも、ありがとうございます。

今年も連日暑い日が続いておりますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか？

さて今回は、暑い真夏とは真逆の寒い真冬のお話です。

今から23年前の1994年12月。

21歳の私は、立命館大学の2年生で大学の交換留学制度を利用して、カナダのバンクーバーにあるブリティッシュ・コロンビア大学に一年間留学していました。向こうは新学期が9月から始まり12月頭で前期の授業を終え、そこから約一カ月間のクリスマス休暇に入ります。

学生は皆、その一カ月をどう過ごすかと早い時期から計画し、ワイワイ盛り上がります。ある学生はヨーロッパへの旅行を計画したり、またある学生は遠く離れた実家への帰省を計画したりと人それぞれです。

そんな中、私には留学前から秘かに決めていたある計画がありました。

“広いアメリカをバイクで走ってみたい！”

日本で毎日バイクに乗っていた当時の私にとって、海外の広大な大地をバイクで走ることは叶えたい夢の一つでした。

しかし、この計画には2つの大きな問題がありました。

1つ目は、大学の決めたルールです。

留学生は現地では、車やバイクの運転を一切してはいけないと決まっていました。ルールを破ったら強制帰国です。

2つ目は、長期休暇を取れるのが12月しかなかったということです。

冬はバイクにとって厳しい季節です。それがカナダ、アメリカになると毎年大雪や凍結で何人もか亡くなっているとの話を聞いていました。



大学のルール上、実行するには極秘で進めなければなりませんので、私は仲の良かったカナダ人のルームメイト一人にだけ計画を打ち明け、サポートしてもらっていました。まずはバイクの購入です。

貧乏学生でしたので、予算は限られています。ルームメイトが一番安くバイクを買える方法を相談したところ、当時新聞の売ります買いますのコーナーが一番いいということでした。(まだネット社会ではありませんでした。)

早速新聞を購入し見たところバイクにヘルメット、グローブ、交換用のオイルまで付いて3万円という破格のバイクが売りに出ていました。すぐに売主に電話してルームメイトと一緒にその方の家を訪ねました。

ルームメイトのサポートもあって無事バイクを購入でき、大学の寮から少し離れた場所に隠し置いていました。

前期の授業がすべて終了し、いよいよクリスマス休暇です。

私は、休暇初日に一人でこっそり大学を出発しました。目的地は友達がホームステイしているサンフランシスコです。バンクーバーからアメリカの西海岸をずっと南下する旅路です。

片道約1800キロの行程でした。

ホテルに泊まるお金はありませんので、各都市にあるユースホステルを渡り歩きながら進んでいきます。

とにかく寒くて30分も走ると手足の感覚が無くなるような状況です。30分毎に耐えられなくなり、公衆トイレに駆け込んで冷えた体を温めました。さらに雨が降ったり、雪が降ったりと過酷な状況は続きます。へとへとになって宿に通り着き雨や雪

でびしょびしょになった服を干しますが、翌朝には乾いておらず、バイク旅で荷物も



最小限に抑えていますので着替えもありません。翌朝濡れた服を着て出発すると寒風に吹きさらされ服が凍ります。氷を着てツーリングしている状態です。

3分で風邪をひきました(泣)

「俺、なんでこんな旅行してるんやろう・・・？」

広大な大地を悠々と走っているイメージとはかけ離れたあまりにつらい状況に泣きながら走り続けていました。

究極は5日目の朝、山の中腹にあるユースホステルに宿泊していた私は目を疑いました。起きたら大雪だったのです。除雪作業はしているもののバイクで山道を走っている人間は私一人です。(各ユースホステルでクレイジーな日本人がいると每晚話題になっていました。)

雪でボコボコの山道を延々下山しなければなりません。

いつ転倒してもおかしくない状況で怖くてスピードが出せません。仕方なく時速10キロほどでノロノロ走っていると、片側一車線の山道はすぐに大渋滞です。5分ほど進んで端に寄り車を動かしてまた走り出します。そしてまたすぐに大渋滞。おまけにその山道にはガードレールがなく、転倒したらそのまま奈落の底へという極限の状況でした。

そんな過酷な毎日を乗り越え、何とか予定通りの日程でサンフランシスコに到着はしたのですが、このバイク旅の最後はバンクーバーへの帰路にエンジンが壊れてそのままバイクを放置、ヒッチハイクで帰ってくるというものでした。(すべて時効です。お許しください。)

私は冬が嫌いです。どんなに暑くても夏が大好きです(笑)

暑くたいへんな時に、たまに思い出す寒〜いエピソードでした。

まだまだ暑い日が続くと思いますが、お互い頑張りましょう！

感謝!!

